

2022年1月度 普及度調査まとめ

本調査は、chemSHERPAユーザーが他の様式を使っている状況を把握するためのアンケート調査です。様式の利用状況（動向）を把握するため、6か月おきに実施する予定です。
この結果は、公開するとともに、委員会活動の参考資料とさせていただきます。

2022年2月
アーティクルマネジメント推進協議会（JAMP）
普及委員会
産業間連携検討会

アンケート概要と回答者の分布

1. アンケート期間

2022年1月24日～2月3日

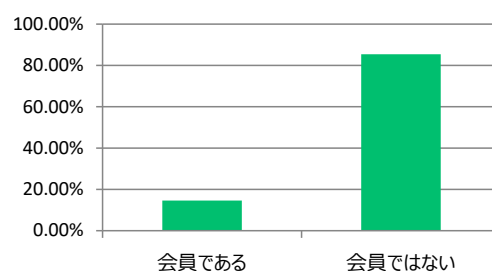
2. アンケート送付先

JAMP会員、委員、
chemSHERPAダウンロードユーザー（直近1年間）
約5万名

3. 有効回答数

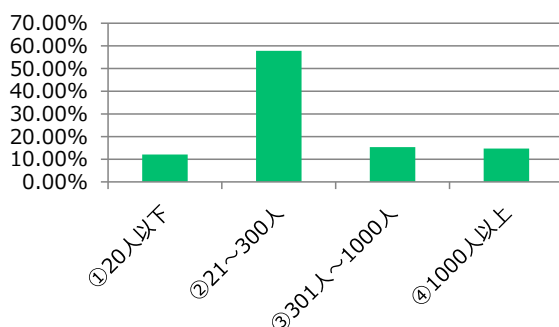
3,409件 うち、設問への回答
川上・川中 2,780名 川中・川下 2,813名

御社がアーティクルマネジメント推進協議会（JAMP）会員か、会員でないか、を選択下さい。[必須回答項目]



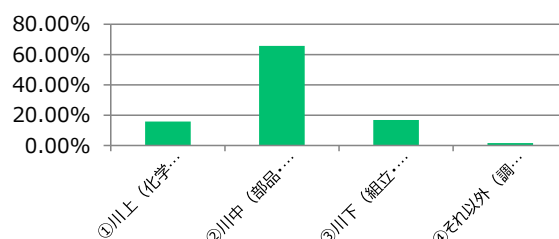
JAMP会員は15%程度

あなたの会社の従業員数をお答えください。[必須回答項目]



300人以下の企業が7割を占める

以下の分類にあなたの会社(工場)を当てはめるとき、最も適切と思われるものを選択してください。[必須回答項目]



川中企業が6割を占める

目次

1. 様式の普及度調査
2. chemSHERPAの活用状況
3. V3への機能強化要望
4. 海外普及でのアジア各国のニーズ
5. 規制対象候補（予定）物質の収載
6. 自由意見

1. 様式の普及度調査

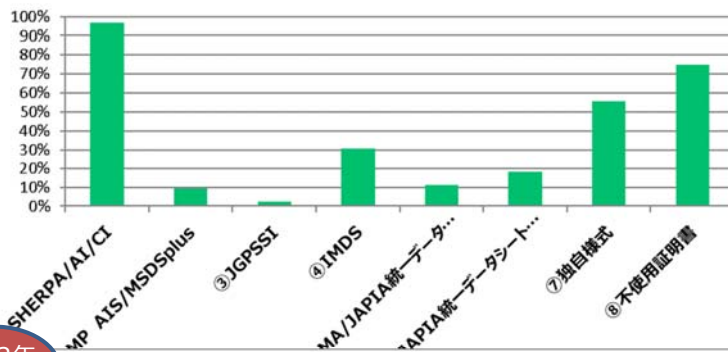
6カ月ごとの定点観測を実施しています。
(2021年6月度との比較を実施)

傾向は大きくは変わりませんが、cS、IMDS、独自様式、不使用証明書は微増。JAPIAシートは感覚として減っている状況。

川上・川中企業が依頼されている様式（現状）

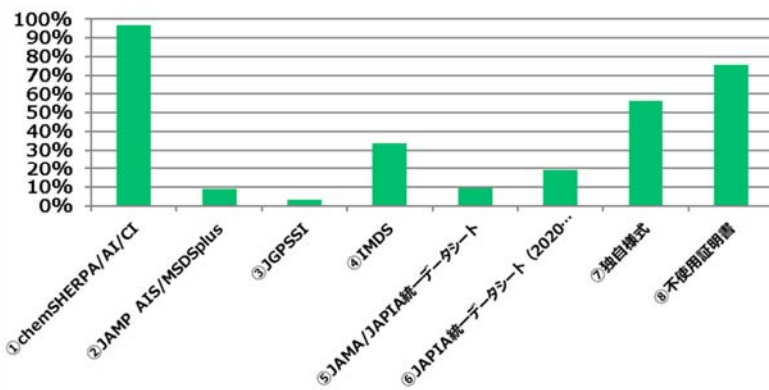
2021年
6月

上・川中企業にお伺いします。現在、顧客（川下企業）から依頼されている様式は、どれですか？（複数選択可）



2022年
1月

上・川中企業にお伺いします。現在、顧客（川下企業）から依頼されている様式は、どれですか？（複数選択可）



Answer Choices	Responses
①chemSHERPA/AI/CI	96.90% 2967
②JAMP AIS/MSDSplus	9.31% 285
③JGPSSI	2.35% 72
④IMDS	30.76% 942
⑤JAMA/JAPIA統一データシート	10.97% 336
⑥JAPIA統一データシート（2020年10月～）	18.09% 554
⑦独自様式	55.52% 1700
⑧不使用証明書	74.95% 2295
	Answered 3062
	Skipped 583

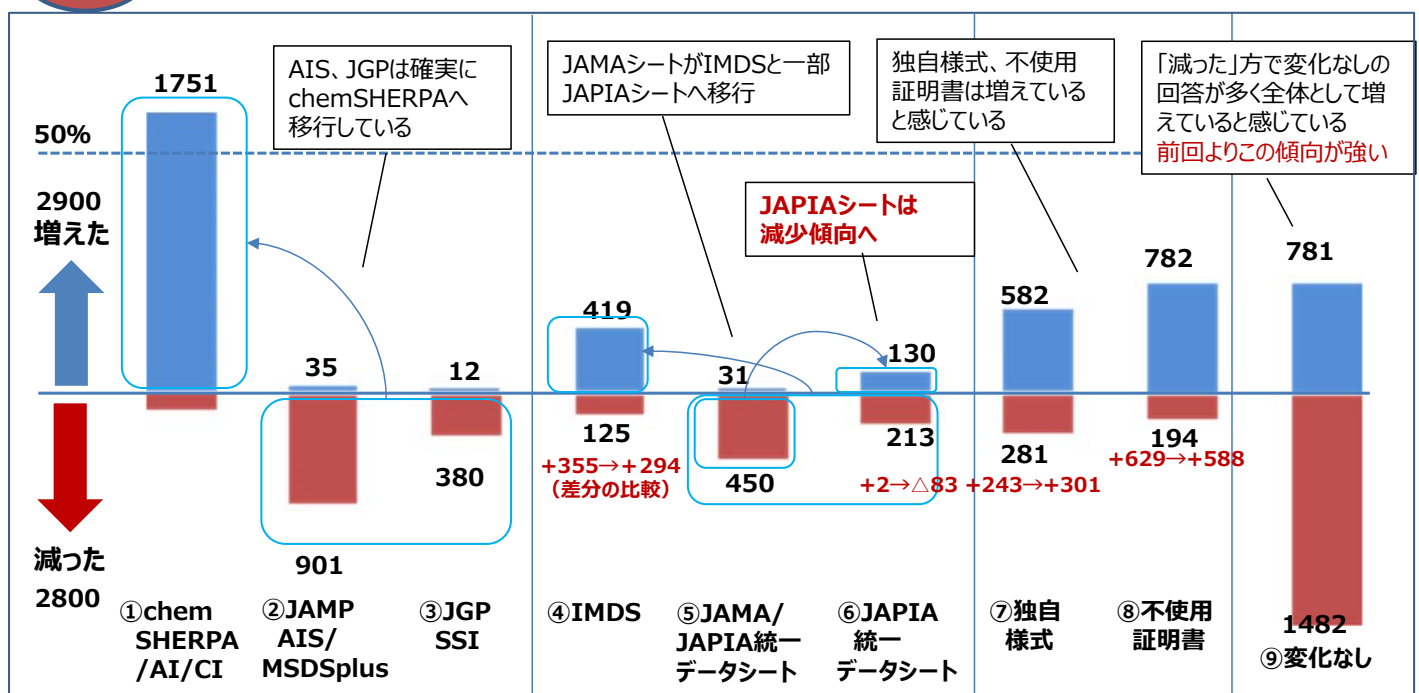
- ①chemSHERPAユーザの1/3はIMDSにも対応している
- ②JAPIAシートもIMDSの2/3程度の利用がある
- ③chemSHERPAの50～80%の割合で独自様式と不使用証明書が存在している

Answer Choices	Responses
①chemSHERPA/AI/CI	96.92% 2836
②JAMP AIS/MSDSplus	8.82% 258
③JGPSSI	3.18% 93
④IMDS	33.83% 990
⑤JAMA/JAPIA統一データシート	9.60% 281
⑥JAPIA統一データシート（2020年10月～）	19.34% 566
⑦独自様式	56.43% 1651
⑧不使用証明書	75.77% 2217
	Answered 2926
	Skipped 483

- ・2%以上の増減 IMDS（+3%増）
- ・JAPIA、独自様式、不使用証明書は微増

川上・川中企業が依頼されている様式の変化（1年前に比べて増えたか、減ったか）

2022年
1月

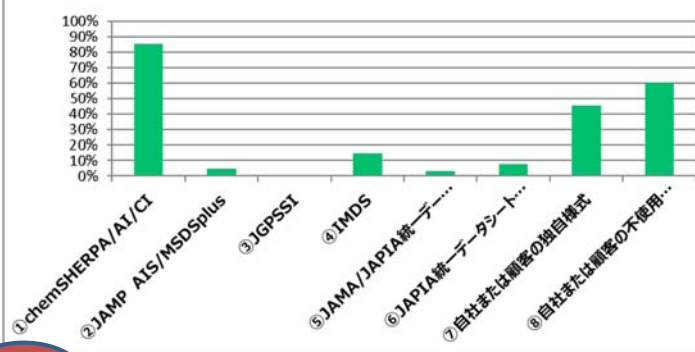


- ①IMDSはやや増加傾向、JAPIAシートは、減った回答が上回り、減少傾向に
- ②独自様式、不使用証明書は引き続き増加傾向にある

川中・川下企業が依頼している様式（現状）

2021年
6月

川中・川下企業にお伺いします。現在、取引先へ依頼している様式は、
どれですか？（複数選択可）



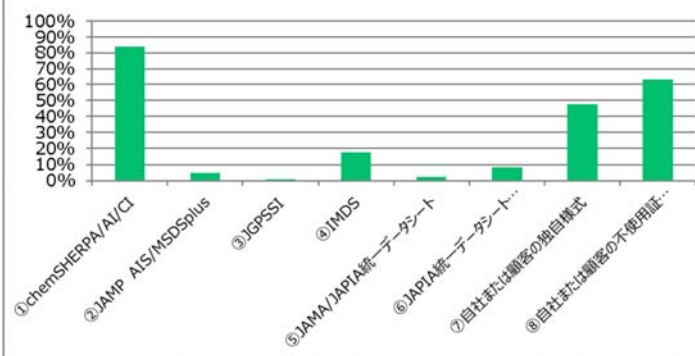
Answer Choices	Responses	
①chemSHERPA/AI/CI	85.73%	2548
②JAMP AIS/MSDSplus	4.95%	147
③JGPSSI	0.74%	22
④IMDS	15.01%	446
⑤JAMA/JAPIA統一データシート	3.13%	93
⑥JAPIA統一データシート（2020年10月版）	7.50%	223
⑦自社または顧客の独自様式	45.39%	1349
⑧自社または顧客の不使用証明書	60.46%	1797
Answered		2972
Skipped		673

- ①IMDSは川下が加わることで15%程度に割合が減る
- ②chemSHERPAの利用率が、依頼される様式に対し依頼する様式が、96.9→85.7%に減っている
- この部分が独自様式や不使用証明書での調査になっていると推定される

・大きな傾向は変わらず

2022年
1月

川中・川下企業にお伺いします。現在、取引先へ依頼している様式は、どれですか？（複数選択可）



Answer Choices	Responses	
①chemSHERPA/AI/CI	83.65%	2363
②JAMP AIS/MSDSplus	4.64%	131
③JGPSSI	0.67%	19
④IMDS	17.56%	496
⑤JAMA/JAPIA統一データシート	2.55%	72
⑥JAPIA統一データシート（2020年10月版）	8.50%	240
⑦自社または顧客の独自様式	47.72%	1348
⑧自社または顧客の不使用証明書	63.12%	1783
Answered		2825
Skipped		584

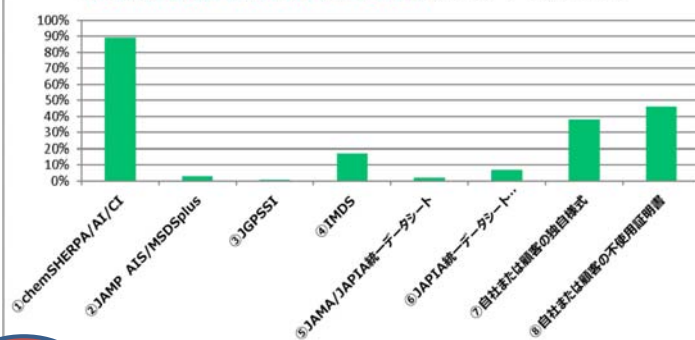
- ・2%以上の増減 chemSHERPA (+2%) IMDS (+3%) 独自様式 (+2%)、不使用証明書 (+2%)
- ・JAPIAシート微増

・JAPIAシートは感覚的に減っている傾向があったが、依頼・受領の割合は微増という状況（普及度でなく量が減少か）

川中・川下企業が将来活用する様式（自動車互換となった場合）

2021年
6月

川中・川下企業にお伺いします。将来chemSHERPAが国際標準の自動車互換様式に対応した場合、取引先へ依頼する様式はどれですか？（複数選択可）

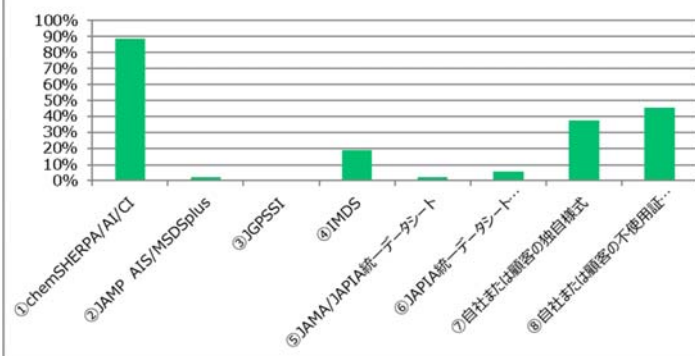


Answer Choices	Responses	
①chemSHERPA/AI/CI	89.25%	2541
②JAMP AIS/MSDSplus	3.09%	88
③JGPSSI	0.67%	19
④IMDS	17.28%	492
⑤JAMA/JAPIA統一データシート	2.04%	58
⑥JAPIA統一データシート（2020年10月版）	6.95%	198
⑦自社または顧客の独自様式	38.08%	1084
⑧自社または顧客の不使用証明書	45.87%	1306
Answered		2847
Skipped		798

- ①自動車互換に対応したら chemSHERPA + 4%、IMDS + 2% 独自様式 △ 7% 不使用証明書 △ 15% の効果があるとの回答

2022年
1月

川中・川下企業にお伺いします。将来chemSHERPAが国際標準の自動車互換様式に対応した場合、取引先へ依頼する様式はどれですか？（複数選択可）



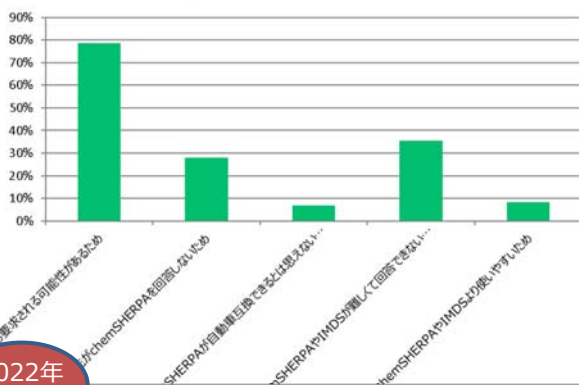
Answer Choices	Responses	
①chemSHERPA/AI/CI	88.37%	2409
②JAMP AIS/MSDSplus	2.38%	65
③JGPSSI	0.33%	9
④IMDS	18.71%	510
⑤JAMA/JAPIA統一データシート	2.24%	61
⑥JAPIA統一データシート（2020年10月版）	5.80%	158
⑦自社または顧客の独自様式	37.12%	1012
⑧自社または顧客の不使用証明書	45.52%	1241
Answered		2726
Skipped		683

- ・大きな傾向は変わらずだが、前回と比較して、JAPIA、独自様式、不使用証明書が若干減っている（chemSHERPAの取り組みが理解されてきたか？）

川中・川下企業 chemSHERPA/IMDS以外が残る理由 (自動車互換となった場合)

2021年
6月

chemSHERPA、IMDS以外の様式が残ると回答された方（①④以外にチェックされた方）、その理由をお教えてください。（複数選択可）



Answer Choices	Responses	
①顧客から要求される可能性があるため	78.65%	1297
②海外取引先がchemSHERPAを回答しないため	28.08%	463
③chemSHERPAが自動車互換できると思えないため	6.79%	112
④chemSHERPAやIMDSが難しく回答できない取引先がいるため	35.42%	584
⑤chemSHERPAやIMDSより使いやすいため	8.31%	137
その他（上記以外の理由、または、補足説明があればお願いします）		468
	Answered	1649
	Skipped	1996

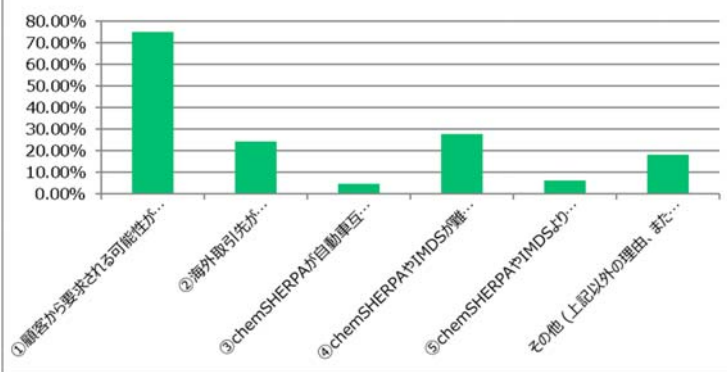
川中企業の割合が多く、
①顧客からの要求が残る
②取引先にとって難しい
③chemSHERPA海外取引先が
対応してくれない
の順に理由をあげている

自由記述欄には、上記の補足説明がある一方で、
・chemSHERPAの規制物質収載
タイミングが遅く、不使用証明書で
の調査が発生している（31件）
という理由が比較的多く寄せられている
（ご参考に添付します）

・大きな傾向は変わらず

2022年
1月

chemSHERPA、IMDS以外の様式が残ると回答された方（①④以外にチェックされた方）、その理由をお教えてください。（複数選択可）



Answer Choices	Responses	
①顧客から要求される可能性があるため	75.17%	1223
②海外取引先がchemSHERPAを回答しないため	24.40%	397
③chemSHERPAが自動車互換できると思えないため	4.98%	81
④chemSHERPAやIMDSが難しく回答できない取引先がいる	27.90%	454
⑤chemSHERPAやIMDSより使いやすいため	6.21%	101
その他（上記以外の理由、または、補足説明があればお願いします）	18.07%	294
	Answered	1627
	Skipped	1782

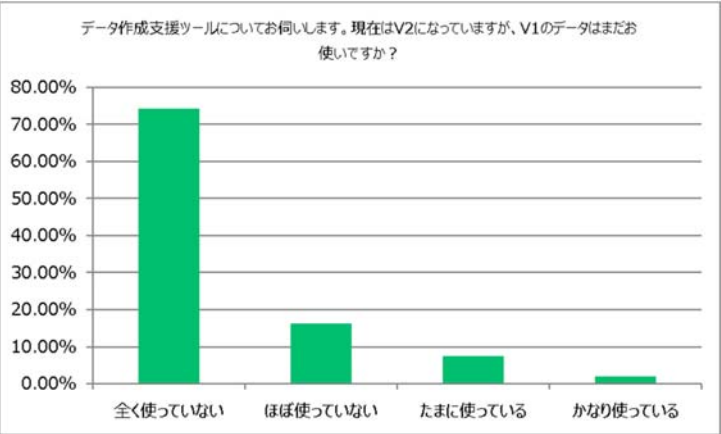
その他の意見として、chemSHERPAの規制物質収載タイミングが遅く、不使用証明書での調査が発生している（25件）、chemSHERPAに未掲載の物質調査が必要（42件）があります。

2. chemSHERPAの活用状況

ツール委員会からのアンケート項目。

V1データ利用、SCIPデータ利用、部品・製品名の半角英数化の対応状況について調査。

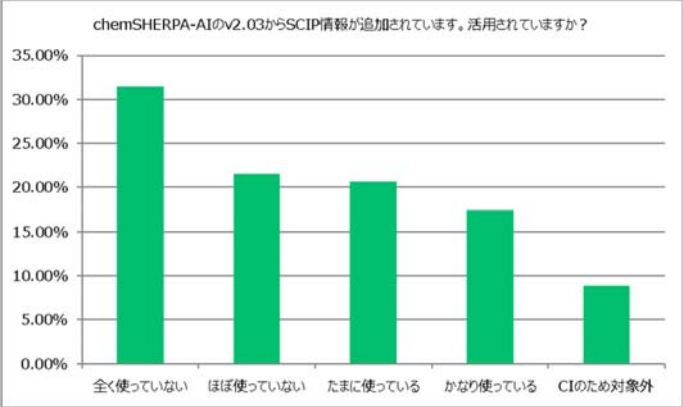
V1データの活用状況



Answer Choices	Responses	
全く使っていない	74.19%	2460
ほぼ使っていない	16.34%	542
たまに使っている	7.57%	251
かなり使っている	1.90%	63
	Answered	3316
	Skipped	93

かなり使っている、は、2%
たまに使っている、までが、10%程度
その理由には「顧客要求」が半数以上

SCIP情報の活用状況

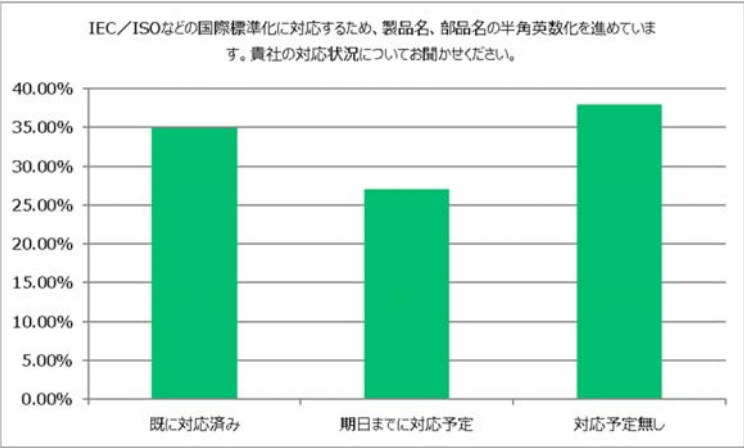


Answer Choices	Responses	
全く使っていない	31.46%	1036
ほぼ使っていない	21.56%	710
たまに使っている	20.68%	681
かなり使っている	17.46%	575
CIのため対象外	8.84%	291
	Answered	3293
	Skipped	116

全く使っていない、CI利用 61.86%
かなり、たまに使っている 38.14%

SCIP情報の活用率は、40%程度

製品名・部品名の半角英数化への対応



Answer Choices	Responses	
既に対応済み	34.95%	1144
期日までに対応予定	27.04%	885
対応予定無し	38.01%	1244
	Answered	3273
	Skipped	136

対応済みと対応予定を加えると、61.99%
対応予定無し、が、40%程度存在する
英数化に反対企業が一定数存在すると思われる

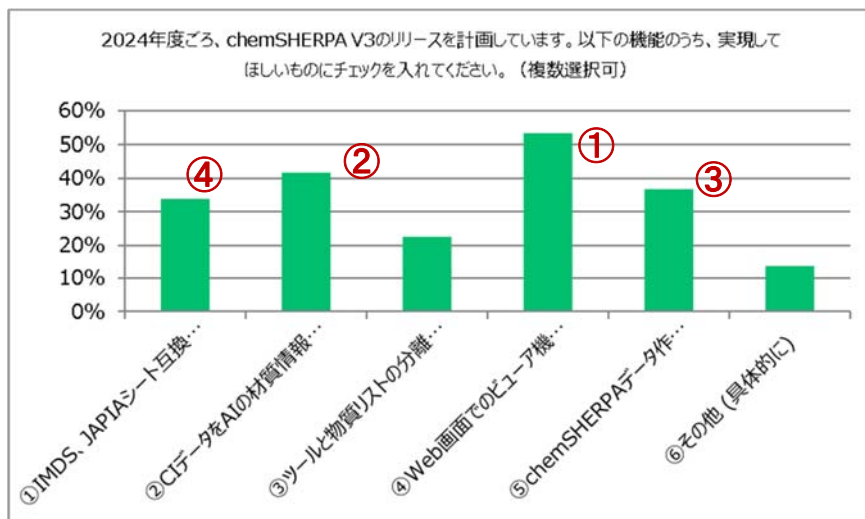
3. V3への機能強化要望

V3要件定義WGで上がった機能について、欲しい機能と不要な機能を調査。

自動車互換は思ったほど広いニーズではない。
むしろ、CI→AI連携ニーズ、ビューア機能などが期待度が上回る。

V3で実現してほしい機能

Answer Choices	Responses	
①IMDS、JAPIAシート互換のための全成分情報の追加	33.81%	1020
②CIデータをAIの材質情報に読み込む機能	41.56%	1254
③ツールと物質リストの分離（物質変更のみの場合、ツールダウンロードを不要とする）	22.61%	682
④Web画面でのビューア機能（shai、shciファイルのままツールを使わず内容が参照できる）	53.23%	1606
⑤chemSHERPAデータ作成支援ツールのWebサービス化	36.73%	1108
⑥その他（具体的に）	13.82%	417
	Answered	3017
	Skipped	392



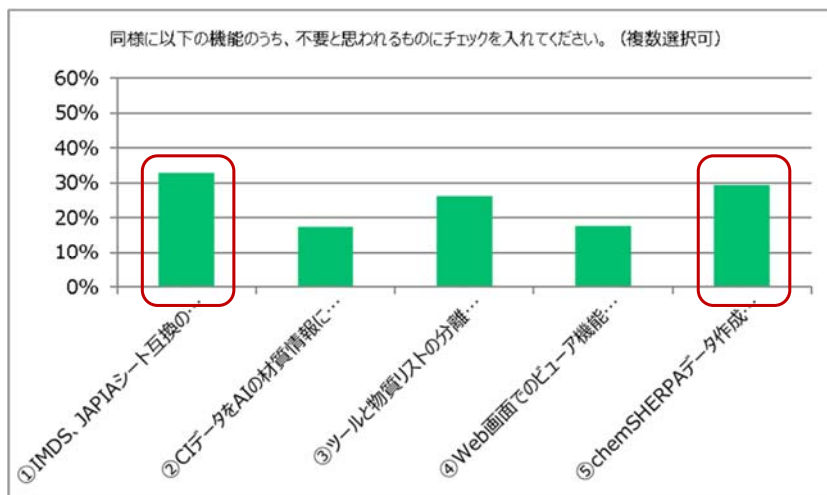
自動車互換についてのニーズは4位

操作性の向上に関するニーズが上位か

その他のコメントはツール委員会で活用

V3で実現不要な機能

Answer Choices	Responses	
①IMDS、JAPIAシート互換のための全成分情報の追加	32.99%	415
②CIデータをAIの材質情報に読み込む機能	17.49%	220
③ツールと物質リストの分離（物質変更のみの場合、ツールダウンロードを不要とする）	26.31%	331
④Web画面でのビューア機能（shai、shciファイルのままツールを使わず内容が参照できる）	17.81%	224
⑤chemSHERPAデータ作成支援ツールのWebサービス化	29.49%	371
	Answered	1258
	Skipped	2151

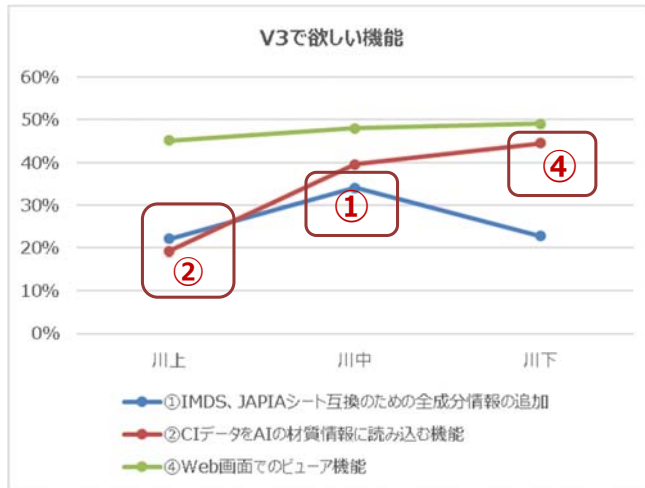


自動車互換についての反対意見もある
ツールWeb化についても反対意見あり

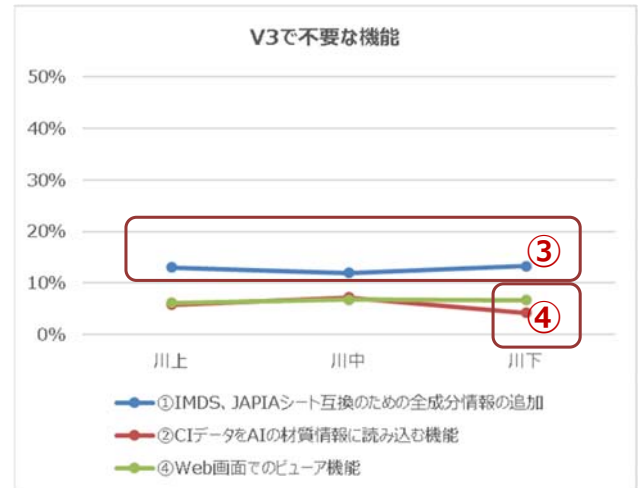
V3で実現してほしい機能 SC支持率分析

		実数				支持率		
		計	川上	川中	川下	川上	川中	川下
回答数		3353	540	2240	573			
V3欲しい	①IMDS、JAPIAシート互換のための全成分情報の追加	1021	119	762	130	22%	34%	23%
	②CIデータをAIの材質情報に読み込む機能	1255	104	887	255	19%	40%	45%
	④Web画面でのビューア機能	1607	244	1076	281	45%	48%	49%
V3いらない	①IMDS、JAPIAシート互換のための全成分情報の追加	416	70	267	76	13%	12%	13%
	②CIデータをAIの材質情報に読み込む機能	221	31	161	24	6%	7%	4%
	④Web画面でのビューア機能	225	33	151	38	6%	7%	7%

サプライチェーン別 V3で欲しい機能



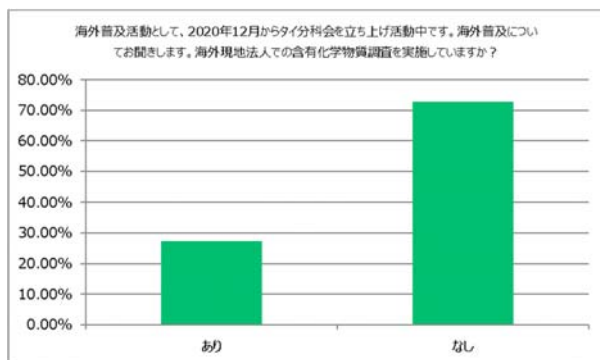
サプライチェーン別 V3で不要な機能



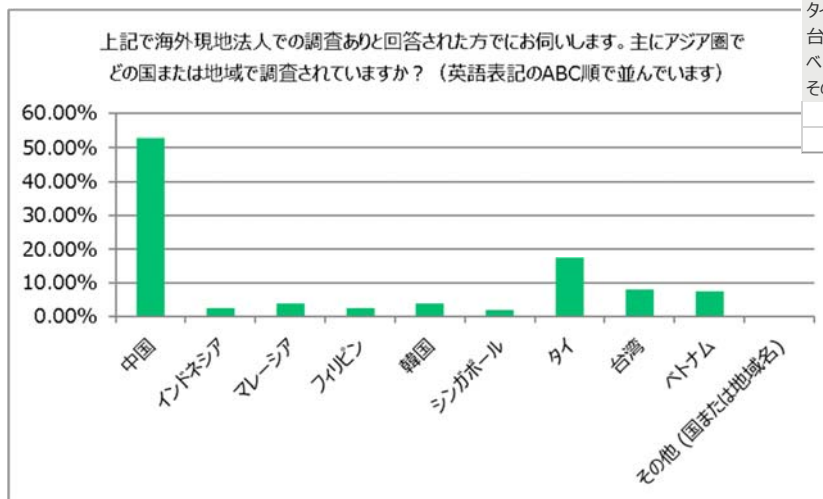
4. 海外普及でのアジア各国のニーズ

タイ分科会、マレーシア分科会の次に広げるための調査。

海外普及について



Answer Choices	Responses	
あり	27.30%	889
なし	72.70%	2368
	Answered	3257
	Skipped	152



Answer Choices	Responses		複数回答
中国	52.72%	514	26
インドネシア	2.36%	23	7
マレーシア	3.90%	38	12
フィリピン	2.56%	25	5
韓国	3.69%	36	13
シンガポール	1.95%	19	6
タイ	17.33%	169	12
台湾	8.00%	78	10
ベトナム	7.49%	73	14
その他（国または地域名）		465	
	Answered	1382	975
	Skipped	2027	

その他の国名

バングラデシュ（6） インド（5） ラオス（1）
 スイス（1） フランス（1） カナダ（1）
 ポーランド（1） ドイツ（4） イギリス（2）
 米国（9） EU（5） チェコ（1）

5. 規制対象候補（予定）物質の収載

是非を問う質問。大きくは賛成方向。「どちらとも言えない」が、半数ほどあり、懸念点に対し具体的に方策を示す必要がある。

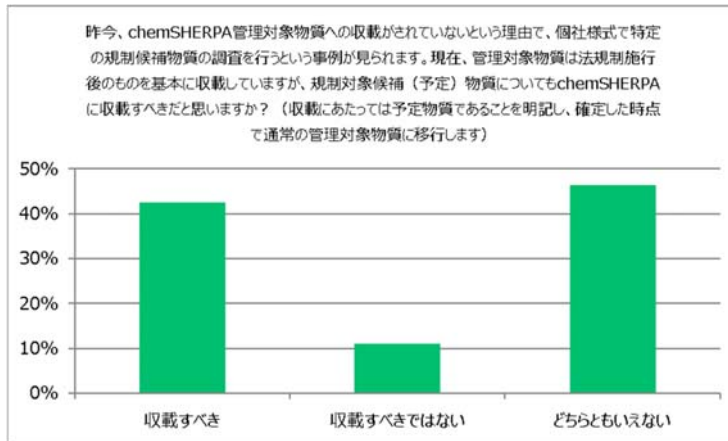
規制対象候補（予定）物質をchemSHERPAに収載すべきか — 一回答割合 —

回答数

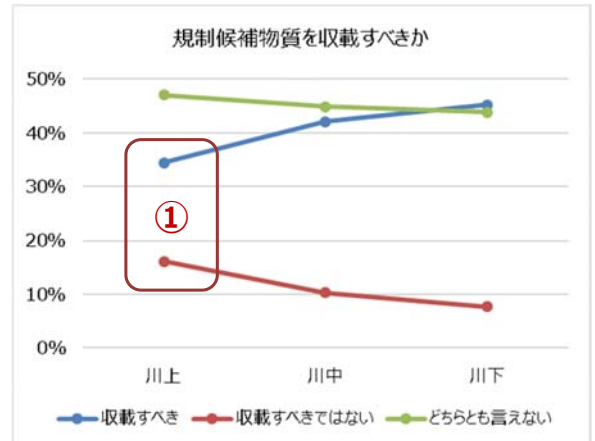
Answer Choices	Responses	
収載すべき	42.46%	1393
収載すべきではない	11.09%	364
どちらともいえない	46.45%	1524
	Answered	3281
	Skipped	128

支持率分析（川上・川中・川下全体数を分母）

		支持率		
		川上	川中	川下
規制候補物質	収載すべき	34%	42%	45%
	収載すべきではない	16%	10%	8%
	どちらともいえない	47%	45%	44%



40%が賛成、10%反対、50%がどちらともいえない



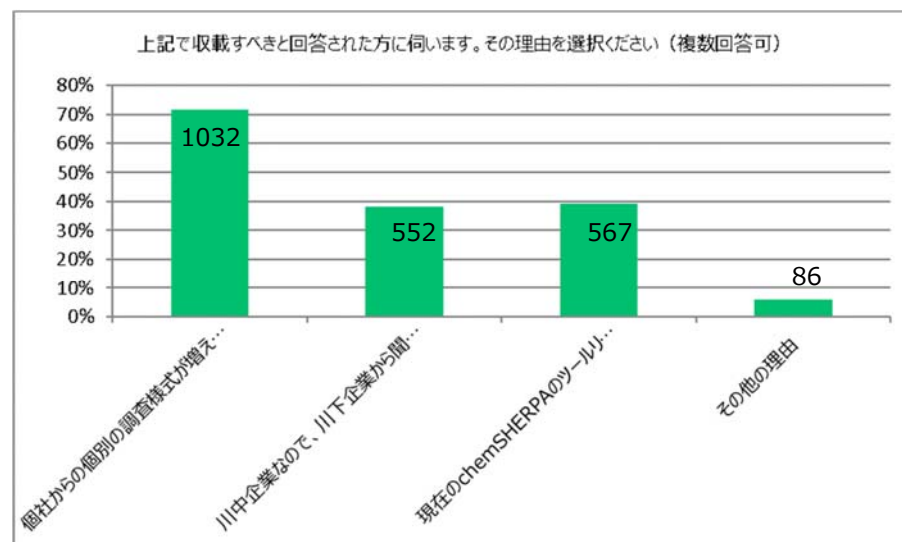
① 川上企業で賛否が分かれる

川上、川中企業では、賛成率が増える

川下から川中→川上への影響度が見えないというのが正直なところか。

規制対象候補（予定）物質をchemSHERPAに収載すべきか — 収載すべき理由 —

Answer Choices	Responses	
個社からの個別の調査様式が増えてしまい、対応に工数を要するため	71.47%	1032
川中企業なので、川下企業から聞かれる前に先行調査が必要のため	38.23%	552
現在のchemSHERPAのツールリリースタイミングでは顧客からの調査依頼に間に合わないため	39.27%	567
その他の理由		86
	Answered	1444
	Skipped	1965



① 個社様式の増加を抑制するため

が70%を超える

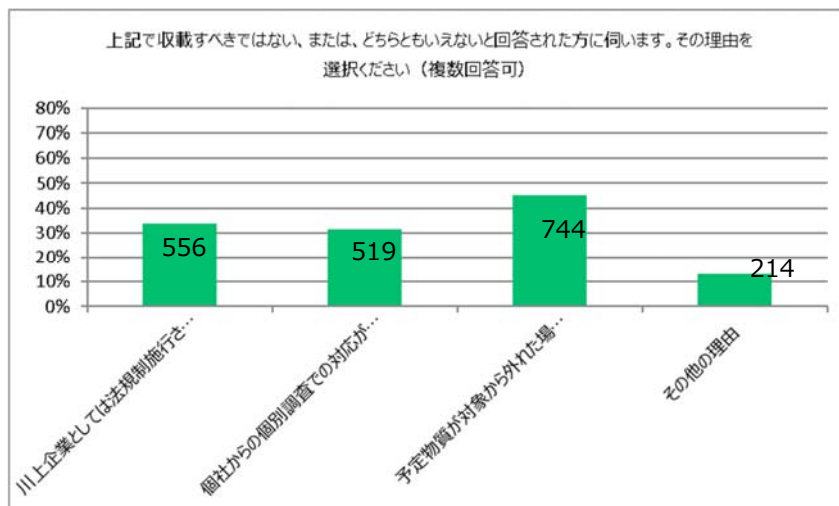
先行調査のため、chemSHERPAのリリースタイミングが遅い、も40%ある

規制対象候補（予定）物質をchemSHERPAに収載すべきか — 収載すべき理由（その他のコメント抜粋） —

外部からの依頼がなくとも 規制に備える期間こそ調査の必要性が高い ため。
調査対象物質が増え、chemSHERPAのバージョンがアップされる毎に、依頼元から繰り返し調査がある為。先のメーカーに重ね重ね調査依頼を行うのは、申し訳ない。特に、購入実績が近々でないものの調査依頼がある為、 1度回答を入手したデータを使いまわす事によって、メーカー側の手間を省く 事ができる。
取引先への調査は 将来予想される環境負荷物質までが企業の要求範囲だ と思っています。 このため、顧客からの規制対象候補（予定）物質の対応に工数を要しています
法規制される物質の公示直後から問合せが急増する。chemSHERPAへの収載をすることでchemSHERPAを入手するだけで調査完了することは好ましいが、 公示後タイムリーなchemSHERPA更新は可能なのか ？公示後の収載が遅れると、chemSHERPAでもってのみ回答する方針のメーカーからの回答がタイムリーに入手できない。もしタイムリーなchemSHERPAへの収載が出来ないのであれば、収載すべきではない（上述メーカーからの回答が得られず、弊社から顧客への回答が遅れる原因となる）
現在の含有化学物質調査では、法規制対象日前の事前調査がかなりあり、現行のchemSHERPAを使用しての調査では、調査対応ができないためです。
対象化学物質がどのような品に使用されているのかも含め調査依頼が届いているのだらうと推察しますが 川中の弊社だけでも何百社から届いているのが現状です 。2021年の例「経済産業省 製造産業局 化学物質管理課 作成の 関係団体 各位 UV328 の含有状況等 予備調査への協力をお願い」
世の中の法規制に対応していればケムシエルパのみで対応が可能（顧客ごとの不使用証明書は不要になるでしょう）。個社が独自に定める禁止物質、管理物質も世の中の何らかの規制や法令や条約に基づいているものです。であれば、 世の中の規制物質全てをケムシエルパに収載していただきたい。 （川上企業は大変困っているんで強く願う）
REACH SVHCの調査、chemSHERPAの作成依頼と重複調査 が立て続きます。候補物質であっても事前に管理対象物質へ収載して頂けると工程がかなり省けます。
chemSHERPAで対応するとしたら、 この物質は規制には入っていないがこれから入るかもしれないもの などの 表示がでると良いです。chemSHERPAにないものの依頼は、たまにPFCA PFOAみたいなのが生まれると、みんな次々と依頼してくる。みんな依頼するのだから、国全体やchemSHERPA等組織的にできた方がスムーズ
CAS番号や具体的な物質名の提示もなく、「PFHxSおよびその関連物質を含有しないという証明書の提出」のような、 乱暴な要求 が非常に増えているため。
EPAのPASF対応などは先行して収載いただけると幸甚です。（一部顧客より先行して問い合わせがあるため）

規制対象候補（予定）物質をchemSHERPAに収載すべきか — 反対またはどちらとも言えない理由 —

Answer Choices	Responses	
川上企業としては法規制施行されていない管理対象物質についても記載が必要となるため	33.80%	556
個社からの個別調査での対応が要求元が明確でわかりやすい	31.55%	519
予定物質が対象から外れた場合の任意報告物質への変更が手間になる	45.23%	744
その他の理由	13.01%	214
	Answered	1645
	Skipped	1764



① 予定物質が外れた場合の対応が手間（45%）
 施行されていない物質に対する記載（34%）
 個別に調査の方が良い（32%）

規制対象候補（予定）物質をchemSHERPAに収載すべきか — 反対またはどちらとも言えない理由（その他のコメントサマリ） —

分類	理由サマリ	件数	主旨
回答拒否	川上企業に出してもらえず、調査が遅れる	38	川上企業に法確定前の物質は拒否される
個社様式許容	個社様式の方が早く入手できる	5	上記に関連して個別に調査した方が早い（出せるものは出してくれるため）
候補外対応	逆に改訂頻度が多くなる	16	chemSHERPAの改訂頻度が多くなるとの回答あり（アンケートでは改訂頻度について触れなかったため）
その他	他の理由もあるので、個社様式は減らない 予定に対応する負荷が増える	53	未確定の物質調査を助長するという意見、 個社様式は残るので、効果は限定的との意見あり

その他の理由まとめ

- ①川上企業に施行前物質の調査は拒否される
- ②あまりに収載すると、規制対象の調査も滞る
- ③chemSHERPAの改訂頻度が多くなるのではないか
- ④未確定物質の調査をあおることにつながらないか
- ⑤chemSHERPA以外の分析データ、証明書も必須としている企業があり、受け渡しは減らない
また、個社独自物質は、相変わらず、不使用証明書や別帳票での調査が必要。

→これらに対し、「掲載対象物質の定義」「利用ルール」や「運用の検討」が必要。

規制対象候補（予定）物質をchemSHERPAに収載すべきか — 反対またはどちらとも言えない理由（その他のコメント抜粋） —

・SVHCの候補物質だけを考えてもchemSHERPAの物質リスト更新が現在の年2回から年4回になり、chemSHERPA更新の依頼が増えるので、残念ながら対応の工数削減になりません。 ・候補物質が確定時に削除や適用除外条件が追加されると、該当／非該当の見直しや報告物質の増減のチェックがより煩雑になるように思います。
難しいですが、あまり収載しすぎると調査が困難になり、収載しないと個別の調査様式が増えて対応が困難になる。
顧客独自で対象なる化学物質を決めているため、全て網羅することができないので、個別に対応するしかない。
この場合は川下企業が保証書などの独自様式の記録を欲しがるケースが多い為、結局chemSHERPAの開示のみで済まずに都度対応を求められるだろうと予想するため
予定物質を予め把握しやすくなるのはメリットですが、情報のみ先行してパニックを引き起こさないかが心配です。
規制対象候補物質の調査依頼は限定的なものであり、川上企業へ調査負担が増えるため、確定まで基本的に調査対応をしない方針です。
川下メーカーによる無意味・必要以上の管理強化推進に繋がりがかねない 規制対象となってから物質リストに反映されるまでのタイムラグを無くす方がより重要
規制候補物質ではない化学物質(例: PVC、赤リン)の調査には依然としてchemSHERPAを活用できない為、メリットを感じない。
現状赤リンは規制がないが、発火可能性から要求が出ている。実際、規制物質が多すぎて調査が困難になりつつある中で、規制対象外、記載可能性物質まで収載すると収拾がつかなくなる。
規制予定物質の全てに規制物質と同一の対応（分析や変更）が必要になる。
予定物質と確定物質の取り扱いが分かり難くなる。確定されたものが提案と同じになるとは限らないが、chemSHERPAでその内容が物質条件まで確認できるのか疑問。確定前なら公示NoやリリースのURLなどで確認できる。
そもそも規制対象候補（予定）物質にまで調査対象を広げる商習慣を見直すべしなのではと考える。個別に候補物質の含有調査に対応する手間を省く為にchemSHERPAに予定物質という前提で取り込んでいただけると助かるが、それは先走った含有調査を行う商習慣を助長することになるのではないかと懸念もある。各業界、用途により候補物質の段階で含油調査を行う意義はそれぞれだと理解した上で意見します。

6. 自由意見

ツールへの要望、ツールリリースの早期化、中小企業への認知度向上などを求める声が多い。

自由意見（分類を経年で比較）

【自由意見欄】 chemSHERPAの普及に関する要望、情報伝達の問題などご意見をお願いします。

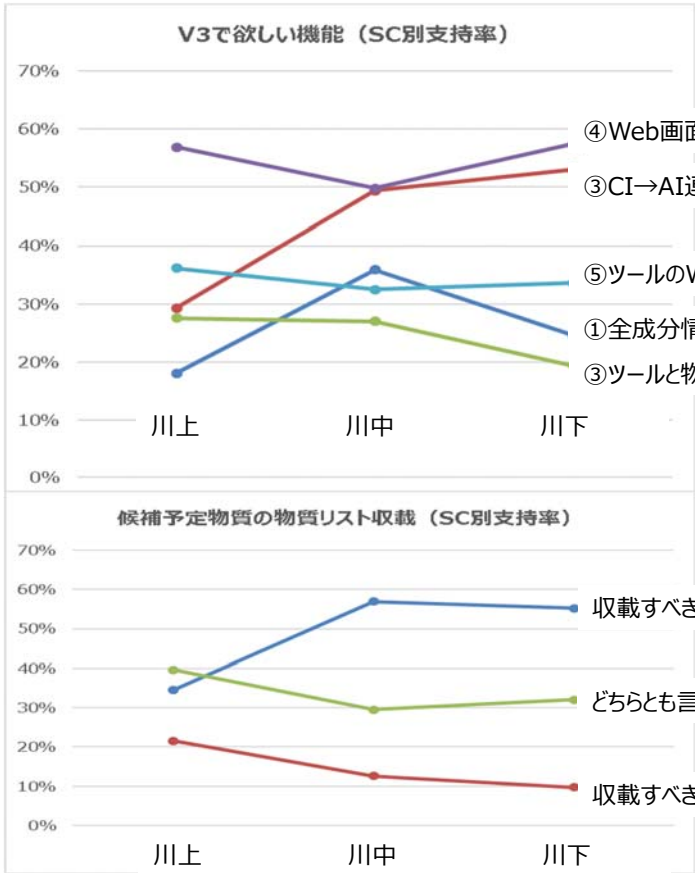
	主な意見集約（回答数 690）	2019	2020	2021
1	入力支援ツールの要望（CI→AI変換ツール、EXCEL簡易入出力など）	198	99	193
2	SVHC公開からツールリリースまでの期間短縮、物質リスト更新頻度、候補物質の収載	40	26	75
3	中小企業への周知、JAMPの企業への指導、国の支援など	49	42	69
4	知識が低い、教育を充実してほしい（無料セミナー、マニュアル充実など）	68	59	60
5	海外メーカーからのchemSHERPAが入手できない。国際普及・国際標準化が重要	53	31	52
6	工数負荷やコスト負担に関する苦情	51	77	50
7	独自要求の禁止は川下企業に強く依頼したい	17	14	46
8	独自調査票、分析データ、重複する不使用証明書など、負荷になっている	39	39	46
9	自動車業界との互換を望む（IMDS、JAMAシート、全成分）	21	23	32
10	SCIPについての要望		17	13

- ①自由意見では、ツールへの要望が多い。特に、EXCELなどの簡易フォーマットへのニーズあり。
製品名・部品名の半角英数化に対する苦情もある（21件）
- ②ツールリリースの早期化や候補物質の収載を求める声、一方、更新頻度を1回／年との声あり。
- ③中小企業への認知度向上・優遇、JAMPの企業への指導、国の支援などを求める声あり。
- ④相変わらず、教育のニーズは高く、判りやすいマニュアル、動画などのニーズもあり。
- ⑤海外メーカーから入手困難、国際標準化を求める声あり。

Appendix

JMAP会員集計 ・ V3要望 ・ 候補物質収載

JAMP会員 SC別支持率分析



	支持率			
	全体	川上	川中	川下
①IMDS、JAPIAシート互換のための全成分情報の追加	28%	18%	36%	25%
②CIデータをAIの材質情報に読み込む機能	45%	29%	49%	53%
③ツールと物質リスト分離	25%	28%	27%	19%
④Web画面でのビューア機能	53%	57%	50%	57%
⑤ツールのWebサービス化	33%	36%	32%	34%

全成分情報とCI→AI連携については、川上企業の警戒感が感じられる

	支持率			
	全体	川上	川中	川下
収載すべき	50%	34%	57%	55%
収載すべきでない	14%	22%	13%	10%
どちらとも言えない	32%	40%	30%	32%

川上企業では候補物質の収載は、十分な理解は得られていない

収載すべきが全体では50%を超える（一般より理解度は高い）



1. 著作権

・本資料の著作権は、発行者であるアーティクルマネジメント推進協議会(JAMP)に帰属し、本書の無断での複製、転載などは著作権法上の例外を除き、禁じられています。本書に記載されている文章、図表などを複製、転載などされる場合は、事前に発行者の許諾を得てください。

2. 責任の制限

・本資料は、記載された情報の利用にあたっては各自の判断に基づき行うものとし、作成者・著作者はそれによって生じた一切の損害については責任を負いかねます。